

現地実習Ⅱ

林業作業の安全管理、森林・里山の整備（人工林）

日時：平成21年11月7日（土） 10:00～15:00

講師：山下 泰司（林業・木材製造業労働災害防止協会）

概況



1. 林業の安全管理

(1) 基本的事項

安全な伐木作業をするための安全の第一は、服装と保護具です。服装は、そでじまりのよい長袖上衣、すそじまりのよい長ズボンを着用する。履物は、足に合った、滑りにくいものを着用する。

(2) 伐木前の準備

支障木等は事前に処理すること。周囲のかん木、枝条、笹つる、浮石などを除去する。

はね返る恐れのある立木、飛来する恐れのある枯損木などを処理する。

(3) 伐倒前の適正な伐倒方向の確認

伐倒木の状態を確認し、伐倒方向を決めること。

つるがらみ・枝がらみの状態、頭上に落下しそうな枯枝がないかを確認する。

根張り、重心、樹冠の状態等を見極め、適度な伐倒方向を決定する。

(4) 伐倒前の他の作業者がいないことの確認

受け口を切る前に、伐倒しようとする立木の樹高の1.5倍の範囲内に他の作業者がいないかを確認する。

(5) 伐倒前の退避場所の選定の確認

受け口を切る前に、退避場所を選定し、退避路を確保する。

退避場所は、伐倒方向の反対側の斜面上方で伐倒木から3m以上離れた立木の陰などの安全なところとする。

(6) チェーンソーの点検整備と正しい目立て

外部の清掃、外部から見える異常の有無、安全装置の機能の点検を行い、異常を

認めたときは、補修など適切な措置をとる。

(7)正しい受け口切り

受け口の深さは、伐根直径の4分の1以上。ただし、大径木は、伐根直径の3分の1以上です。

(8)正しい追い口切り

追い口は、受け口の高さの、下から3分の2程度の位置を、水平に切り込む。

(9)つるを適切につくる

追い口を、切り込みすぎない。

(10)くさびを正しく使い、確実に伐倒

くさびを正しく使い、伐倒方向を確実にする。

くさびは、原則として2個以上を使用し、立木の傾き、大きさに応じて使用本数を多くする。

追い口が浮き始めたら、直ちに避難場所に避難すること。

(11)指差し呼称の励行

必ず、作業する前に、次の要所要所で確認すべき対象を、しっかり見つめ、「○○(よいか?)」「ヨシと！」と、大きな声で唱えて確認してから、作業を開始。

2. 森林の整備

講義で学んだことを活かすために里山サテライトのヒノキ林に行き、あらかじめ選定したヒノキの木を3グループに分かれて間伐作業を行ないました。森の手入れにより森林がどのように変化したか理解し、手入れの方法を学ぶことができました。